

インバウンド

中津市長 奥塚 正典

最近、「インバウンド (INBOUND)」という言葉をよく聞きます。インは「中に」、バウンドは「・・・に向かう」、合わせて「中に向かう」という意味です。旅行業界では外国から日本にやってくる観光のことを指します。

外国から日本への観光客がすごいスピードで増えています。平成 30 年は 3,000 万人を超え、この 5 年間で約 3 倍に増えました。国内の人口減少が進む中、観光・消費市場が国外客に期待する向きは強く、今年のラグビーワールドカップ、来年の東京オリンピック・パラリンピック開催がさらに多くの外国人を我が国に迎えることとなります。

中津市でも外国人観光客を見かけるようになりました。観光バスでの団体に加え、小グループや家族旅行など旅行形態もいろいろです。大分県への外国人客は韓国が約 6 割、次いで台湾、香港、中国の順でそれぞれ約 1 割です。これは、航空便の利便性、交流の多寡、地域の認知度、旅行業者のコース設定などが影響しているのでしょうか。となると、多くの人に来てもらうためには、訪問客が中津の魅力をもっと知る、中津を気に入る、中津を旅行のコースに入れることが大事です。

そこで大切なのが受け入れ態勢です。一つに言葉が通じる「コミュニケーション」。二つに「キャッシュレス」、現金を持ち歩かなくてもカードやスマホで支払いができること。そして三つに最も大切なのが「おもてなしの心」。これらの点は我々も工夫をした取り組みがまだまだ必要です。



中津を楽しむ外国の人たち

国際便を持つ福岡、北九州、大分の 3 つの空港を利用できる中津。自然景観、歴史・文化、そして流行のサイクリングやウォーキングの体験などどれをとっても魅力ある中津。「なかつバウンド」のお客さんを一人でも多く迎えるため、官民連携し力を合わせて知恵を絞りましょう。